



表紙の説明

明治42年留萌第2尋常小学校付属特別教授場として創立開校する。大正5年に34坪の校舎に拡張し、大正7年峠下尋常小学校となり、大正15年に101坪の校舎が建設となり、昭和16年留萌町立峠下国民学校となる。昭和22年に市立峠下小学校と改称。



昭和37年に校舎ブロック2階建の現校舎が完成。しかし、平成元年に生徒の減少に伴い閉校となりました。



留萌 いまむかし

第五十八話

内陸部の獅子舞

秋の収穫がすむと農村部のお祭りの季節がやってくる。海岸部では春がお祭りの季節であるが、農村部は秋のお祭りが主である。そして、海岸部のお祭りの主役が神楽であるのと同様に、獅子舞がその主役であった。

留萌の内陸地方には樽真布と幌糠に獅子舞が伝承されている。幌糠、樽真布は明治三十年代に御料農地として区画され入植者を募集して開拓にあたらせたところである。幌糠では明治三十三年頃昼尚暗い開拓地に入植した人々が、幌糠神社の創設と共に越中五箇山地方の大獅子舞を導入したのが始まりである。この獅子は八人が中に入り踊る獅子舞で舞方十名、囃子方五名で構成されており、勇壮な

踊りが人気を集めた。

樽真布は幌糠の御料地より若干遅れて明治三十七年頃入植者がはいったが、やはり村の鎮守である八幡神社の創設と共に始まった。樽真布の獅子舞も越中五箇山地方から導入されたが、幌糠のような大獅子ではなく二人で舞う形式のものである。また、この樽真布獅子舞はその起源を源氏と平家の覇権を競った時代に求めることができるという。富山県の五箇山地方は有名な五箇山のように平家の落人伝説が多い所であり、山間に村が点在している所でもある。このように留萌の内陸部の獅子舞は北海道の内陸部の開拓と時を同じくして発祥し、そのルーツをたどると越中

行き着く。

これは当時富山、石川あたりからの移住者が留萌の御料地に入植した者の大半を占めていたこと。また越中という御国柄が獅子舞が盛んな地域であったことなどによると考えられる。当時の入植者にとって、この獅子舞は日々の過酷な労働を忘れさせる数少ない娯楽の一つであったことが推察される。一年の収穫が終わると村の集会所に男たちが三々五々集まってくる。



樽真布獅子舞

「おれのところは今年の大豆のときは良かった。おまえの所はどうだった？」
「おれのところは夏に水かぶったものだからだめだった。」とひとしきり世間話に花が咲く。しかし、良かったところも悪かったところも獅子舞の練習に入ると来年への期待を込めて力が入る。秋の日はずぶりと暮れていく。

ちびっこギャラリー

お子さんの絵を募集しています。 ☎2-1801内線293までご連絡ください。



「ファンタジードーム」 (留萌小2年)

大河内 爛ちゃん (本町4)

夏休みに家族で、苫小牧のファンタジードームへ行きました。汽車や船など楽しい1日でした。また行ってみたいです。8月にはグリック王国にも行ってきました。楽しい夏休みでした。